

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：53901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370887

研究課題名(和文) 二重帝国期のブルノにおける中等教育制度と言語・民族問題

研究課題名(英文) Language / ethnic problems in secondary education at Brno 1867-1918

研究代表者

京極 俊明 (KYOGOKU, Toshiaki)

豊田工業高等専門学校・一般学科・准教授

研究者番号：20535942

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：ブルノ市に最初のチェコ系ギムナジウムが開設されたのは、1867年のことである。これにより、チェコ語で教育を受けた、新世代のエリートが登場するようになった。彼ら新世代のエリートたちは、保守的でカトリックの影響が強かったモラヴィアのチェコ国民運動に大きな変化をもたらした。ブルノのチェコ系ギムナジウムに進学した学生の出自を調査した結果、チェコ系ギムナジウムへの入学を望んだのは、地方の小都市や農村の出身者であることが判明した。両親の職業から社会層について分析を行うと、チェコ系ギムナジウム入学者は、地方の農民・職人が中心であったといえる。また卒業生の半分以上が神学部への進学を希望していた。

研究成果の概要(英文)：The first Czech gymnasium was established in the city of Brno in 1867. The new generation of Czech elite has emerged from this new Czech secondary school. The new generation of elites brought about a major change in Moravian Czech national movement, which was conservative and strongly influenced by Catholicism.

As a result of investigating the origins of students who entered the Czech gymnasium in Brno, it turned out that they were from small cities and rural areas. Analyzing the fathers' occupations, it can be said that their fathers were mainly local farmers and craftsmen. More than half of the graduates hoped to advance to the faculty of theology.

研究分野：東欧近代史

キーワード：西洋史 オーストリア=ハンガリー二重帝国 民族問題 ギムナジウム ブルノ

1. 研究開始当初の背景

オーストリア＝ハンガリー二重帝国の西側（以下オーストリアと称す）における中等教育とエリート層の形成について、教育社会史の手法を用い、民族・宗教の問題と結び付けて論じたスタンダードワークとして、Cohen, Gary B., *Education and Middle-class Society in Imperial Austria*, Purdue University Press, 1996. が挙げられる。教育社会史の手法を取った、Cohen(1996)の研究は秀でており、オーストリア全体の動向を描き出すことに成功している。今後の課題として、オーストリアでは個々の領邦・地域で、産業、教育水準、住民の民族・宗教構成が大きく異なっていることから、個別の地域に絞った事例研究・比較検討を行い、オーストリアの多様性を確認した上で、全体像へのフィードバックを行うことが必要となる。

現在の日本において、多文化共生の問題は、極めて重要である。明確なビジョンと国民的な合意を欠いたまま、移民受け入れを安易に進めた場合、深刻な軋轢が生じる可能性が極めて高い。現在の民族問題を考察する上で、19世紀の多民族帝国の事例について研究することは、必要不可欠な課題であると言える。

2. 研究の目的

本研究では、現在のチェコ共和国の東部にあたる、モラヴィアの州都ブルノのチェコ系中等学校を事例として取り上げる。チェコの首都プラハでは比較的早い段階で、チェコ系住民が市政を掌握し、ドイツ系、ユダヤ系の住民は少数派となった。しかし、ブルノ市ではドイツ系、ユダヤ系住民の力が強く、1918年、帝国の崩壊まで市政を掌握し続け、チェコ系住民は市議会の少数派にとどまった。

ブルノ市には、1866年に最初のチェコ系（スラヴ系）ギムナジウムが設立された。このギムナジウムを嚆矢とする、チェコ系中等学校の拡充が、ブルノにおけるチェコ系住民

のエリート社会の発展、ならびにチェコ民族意識を持った新世代の育成に密接に関与していたことは疑いない。だが、現在に至るまで、ブルノのチェコ系中等学校について、包括的な研究は行われていない。ブルノ市のチェコ系中等学校を教育社会史の手法で分析し「少数派」であったチェコ系住民が、独自の「国民社会」とエリート層を形成していく過程を明らかにすることが、本研究の目的である。

3. 研究の方法

二重帝国期のオーストリアの中等教育機関については、比較的多くの史料が刊行されている。基本的な史料としては、同時代に発行された中等学校の年次報告書が挙げられる。年次報告書には教員、学生数の変動、カリキュラム、使用教科書など、教育社会史研究に必要な基本的情報が含まれている。

またブルノ市文書館には、中等学校に関する未刊行資料が良好な状態で保存されている。特に学籍簿には、学生の父親・後見人の職業、出身地が記載されている。また担任の覚書として、進路もしくは進路希望についても記載されている。学生の社会的出自の分析に極めて有用である。これらの史料を用いて、チェコ系ギムナジウム第一期生を核として分析を行う。同時にブルノ市のドイツ系ギムナジウムとの比較を行い、ブルノとモラヴィアのチェコ国民社会の特徴を描き出す。

4. 研究成果

ブルノ市に最初のチェコ系ギムナジウムが開設され、1867/68年度に第一期生が入学した。これ以前は、チェコ系の住民は、ドイツ系のギムナジウムに通うほか選択肢がなかった。しかしチェコ系ギムナジウムが開設されたことにより、チェコ語で教育を受けた、新世代のエリートが登場するようになった。彼ら新世代のエリートたちは、

保守的でカトリックの影響が強かったモラヴィアのチェコ国民運動に大きな変化をもたらした。例えば文学の領域では「モラヴィア青年文学運動」が起こり、前世代のロマン主義を批判し、リアリズムを重視した文芸作品が発表された。中心人物の一人L・チェフは、ブルノのスラヴ系ギムナジウムを卒業し、「ゾラ」の編集長として、「モラヴィア青年文学運動」をリードした。彼らの活動は1880年代には文学から政治の世界に拡大した。チェフは1886年に設立された民族主義的結社「南西モラヴィア民族同盟」の主導者となり、文化だけでなく経済も含めたチェコ国民運動の高揚を提唱した。(豊田工業高等専門学校研究紀要 47 85-88 2015年1月)

以上のように、チェコ(スラヴ系)系ギムナジウムの誕生は、モラヴィアのチェコ国民運動に大きな影響を与えたのは間違いない。ではブルノのチェコ系ギムナジウムに進学した学生はどのような社会層に属していたのか、第一期生である1867/68年度入学者を中心に分析を行った。

まず出身地について見ると、入学者の9割以上がモラヴィア出身であったが、ブルノ市出身者は66人中、3人のみであった。チェコ系ギムナジウムへの入学を望んだのは、地方の小都市や農村の出身者だったのである。

また信仰についてみると、66人中65人がカトリックであった。ブルノには富裕なユダヤ人層が存在していたが、ユダヤ人はドイツ系ギムナジウムを選択した。

両親の職業から社会層について分析を行うと、まず全体の1/4以上を占め、第一位となるのが農民であった。職人も多く総計すると、同じく1/4程度となる。小学校の教員も多く、12.1%を占めた。商業に関わる者が1割程度、弁護士などの教養市民層は9.1%であった。規模については史料上の制約から不明であるが、チェコ系ギムナジウム入学者は、地方の農民・職人が中心であったといえる。

(豊田工業高等専門学校研究紀要 49 2017年3月)

同年度のドイツ系ギムナジウム1Aクラス入学者について見ると、入学者71人中、ブルノ出身者が42人、ブルノ市外のモラヴィア出身者が19人、ウィーン4人、ハンガリー2人、その他領邦の出身者が総計4人であった。

また父親・後見人の職業構成を見ると、判別可能なもののうち、53人中、約三分の一が商人、11人が官吏、5人が職員、であり、農民は0人、職人は5人であった。また家主2人、工場主3人と明らかに富裕層に属するものが見られた。

ブルノはモラヴィアの州都であり、「オーストリアのマンチェスター」と呼ばれた工業都市であった。チェコ系住民が多数居住していたが、ウィーンに近いと、ドイツ的性格が強かった。ゆえにブルノ市の住民は、ドイツ系ギムナジウムへの進学を望む傾向が強かったと言えよう。また1867/68年度の時点では、チェコ系ギムナジウムとドイツ系ギムナジウムでは、出身社会層に明確な差異が見て取れる。工業・商業部門と官僚はドイツ系ギムナジウムを好む傾向が明白である。

チェコ系ギムナジウム第一期生の最終年度、第8学年にあたるのが、1874/75年である。第8学年の学籍簿の教員の覚書から進路、もしくは進路希望を集計した。8年生23人中最大は神学・聖職者で13人、以下法学が7人、医学が2人、哲学が1人であった。

他方でドイツ系ギムナジウムの同年度8年生の記録を見ると、38人中最大は法学21人で、以下神学5人、哲学4人、文献学4人、医学2人、工学1人、農学1人となっている。

農村出身者中心のチェコ系ギムナジウムとドイツ系ギムナジウムで、進路・進路希望の差異が明白に表れている。ボヘミアと比較して、モラヴィアのチェコ国民運動が保守的であり、20世紀初頭もカトリック系政党が有

力政党として存在していたことも、将来のエリートたるギムナジウム卒業生の選択を見れば、なんら不思議はない。

今回の研究では力不足により、第一世代の動向を検討するにとどまった。1880年代以降の変動、実科学校の動向についての検討は今後の課題としたい。他の領邦との比較研究を行うことにより、オーストリア、あるいはヨーロッパにおける、ブルノの事例の位置づけが可能となり、新しい展望を開くことが可能になる。今回の研究成果を土台として、今後さらに研究を深めていく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

京極俊明

「1867年度ブルノスラヴ系ギムナジウム入学者の社会構成」『豊田工業高等専門学校研究紀要』49 2017年3月

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者 京極俊明(KYOGOKU TOSHIAKI)
豊田工業高等専門学校・一般学科・
准教授

研究者番号：2053942

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：

(4)研究協力者
()